

堀口文昭市長 退任のごあいさつ

「平凡な至誠」を尽くした11年8カ月

このたび、10月31日をもって、八幡市長の職を退任することになりました。11年8カ月にわたり、市長の重責を担うことができました。市民の皆さまからのご支援、ご協力のおかげであり、厚くお礼を申し上げます。

59歳の時「市民と行政が手を携えたまちづくりを進めたい」との思いで、市長選挙に立候補させていただきました。そして、市長就任後は「市民一人ひとりが輝く市民と協働したまちづくり」を信念に、市民の皆さまにお約束しました公約の実現を果たすべく、日々奮闘してまいりました。

1期目は、子育てや健康づくりなどの土台を築くため、京都府初の認定こども園として有都こども園の開園、男山地域まちづくり連携協定の締結、子ども・子育て支援センター「すくすくの杜」の開館、健康マイレージ事業を開始いたしました。

2期目は、子どもが楽しくいきいきと育ち、市民誰もが健康で幸せに暮らせるまちにするともに、市民の誇りである豊かな自然と歴史文化にさらに磨きをかけるため、やわたスマートウェルネスシティ計画の策定、中学校給食の開始、徒然草エッセイ大賞の創設、やわた未来いきいき健康プロジェクトなどに取り組みました。

3期目では、私の市長としての取り組みの集大成として、健康まちづくり条例の制定、子はたからプロジェクトの開始、スケートボードパークの整備、GIGAスクール構想に基づく1人1台のタブレット端末の整備や市立小・中学校の屋内運動場などへの空調設備の整備、新本庁舎の完成など、振り返ればきりがありません。

任期中は、京都府南部豪雨や大阪府北部地震、新型コロナウイルス感染症感染拡大などの様々な困難もありましたが、市民の皆さま、各組織・団体の皆さま、そして議員各位のご支援やご協力があり、そこに全職員が課題の解決に取り組み、乗り越えてくれたからこそ、今日の市の発展が成し遂げられたと思っております。

市政を推進するにあたり、私が心がけていたことは「平凡な至誠」です。これは、私の祖父が昭和33年10月に副議長から八幡町の助役に就任させていただいたときに自らの信条として述べたものです。誠意のある対応ということ、は、人それぞれの基準があり、なかなか判断が難しい面があります。祖父は、凡人たる自分のできることを自覚し、その範囲内で努力することしか自分ではできないことから、平常心でまごころをもって対応するしかない、またそうすることにより道は必ず開けるとの信念をこの言葉に込めたのだと思います。私はこの言葉を常に心に刻みながら職務にまい進してまいりました。

まちづくりには終わりがありません。これからは一市民として、さらなる八幡市の魅力あるまちづくりに貢献してまいります。そして、八幡市が新しい市長の下で前進していくことを願ってやみません。

最後に、市長時代や37年間過ごした職員時代のみならず、今日に至るまでの時々にお世話になりましたすべての皆さまに感謝を申し上げます。長い間本当にありがとうございました。



11年8カ月のあゆみ

- 平成24年**
 - 2月 堀口市政スタート
 - 8月 京都府南部豪雨対応
- 平成25年**
 - 3月 市民協働活動センター開設
 - 4月 京都府初の認定こども園として有都こども園開園 各種がん検診を無料化
 - 10月 男山地域まちづくり連携協定締結
- 平成26年**
 - 4月 病児保育事業開始
 - 7月 健康マイレージ事業開始
- 平成27年**
 - 4月 「日本茶800年の歴史散歩」として日本遺産に認定
 - 5月 子ども・子育て支援センター「すくすくの杜」開館
- 平成28年**
 - 2月 石清水八幡宮国宝指定
- 平成29年**
 - 3月 さくらであい館開館
 - 5月 中学校給食開始
 - 8月 徒然草エッセイ大賞創設
- 平成30年**
 - 3月 やわたスマートウェルネスシティ計画策定
 - 6月 大阪府北部地震対応
- 令和元年**
 - 9月 やわた未来いきいき健康プロジェクト開始
- 令和2年**
 - 3月 市民防災広場雨水地下貯留施設完成
 - 6月 健康まちづくり条例制定
- 令和3年**
 - 3月 GIGAスクール構想に基づく1人1台のタブレット端末の整備
- 令和4年**
 - 3月 第1回やわたブランド「ヤワタカラ」の認定品決定 スケートボードパーク完成
- 令和5年**
 - 1月 新本庁舎供用開始
 - 8月 健康スマイルスタジオ開始

平成24年2月 堀口市政スタート 写真上

平成27年5月 子ども・子育て支援センター「すくすくの杜」開館 写真中

平成28年2月 石清水八幡宮国宝指定 写真下

